

岩峰から絶景の展望と昇仙峡探勝 弥三郎岳(羅漢寺山)

実施日	2013年11月24日(火)
天候	快晴
リーダー	石原 勝正
参加者	佐藤金冶、伊藤久雄、石附智恵、小村井好江、滝沢きよの、柴田正喜、島本陳重、石原勝正 計8名
費用	新宿駅⇨甲府駅(JR特急7,640円)、甲府駅⇨天神の森BS(バス:1,600円)、パノラマ台⇨昇仙峡滝上(ロープウェイ:550円) 計9,790円
タイム	天神の森BS(9:15~10:40)太刀の抜岩(10:50~10:55)白山見晴台(11:00~11:45)白砂山と昼食(11:45~12:30)パノラマ台駅(13:00~13:30)弥三郎岳(13:45~14:00)パノラマ台駅(14:00~14:05)ロープウェイ(昇仙峡滝上駅(14:10~14:05)天神の森駐車場(15:40))

会報では、御岳郵便局近くの登山口から弥三郎岳を経て獅子平へ抜けるコースを計画していたが、秋の昇仙峡紅葉の絶好期であったため、天神の森バス停近くの登山口から弥三郎岳の展望を堪能し、その後ロープウェイを利用し、昇仙峡の峡谷と紅葉の探勝ルートを下る周遊コースに変更した。

天神の森駐車場～太刀の抜き岩～白山展望～白砂山

昇仙峡峡谷の入り口にかかる長潭橋(ながとろばし)を渡って、



土産物民家の横の金網柵(獣除け)を開けて山道に入る。今日の体調を確認しながら10分ほど登って林道に到達して、若干の着替え休憩の後林道歩きから再び登山道に入る。



登山道はゆっくりとした登りが続き、クヌギやナラの落ち葉を踏んで周りの雑木林の黄葉が

太陽光を浴びて輝く中を快晴に感謝し、快適に歩く。また、展望の開けた場所に到達する



と快晴のなかにそびえる青い富士山をくっきりと遠望することができる。

途中5分ほどの休憩をとり1時間30分ほど登って太刀の抜き岩という巨岩が峻立する岩峰を一回りする。

登山道に戻ってしばらく進むと、白山



の見晴台入口の標識と付近の地質を解説した案内板があり、後ろに続く道に入ると花崗岩の白

い砂の斜面が広がった白山見晴で、南アルプスの山々、とりわけ、甲斐駒ヶ岳や鳳凰三山の展望が素晴らしい。

ここまでのルートはこぶし会以外の誰にも会わない静かな山行であったが白山見晴への分岐まで戻るとはじめて二組の山行パーティに出会う。

その後、しばらく尾根をゆるく登ると白砂山への分岐につく。分岐から東に派生する枝尾根を登ると青い松と白砂の敷

き詰められた明るい山稜が白砂山である。



花崗岩の巨岩が散在するピークが山頂で、白砂の広場をこぶし会独り占めで昼食を兼ねた休憩

を取る。

白砂山～パノラマ台駅～弥三郎岳～パノラマ台駅～ロープウェイ～昇仙峡滝上駅

白砂山から枝尾根を分岐まで下り、主稜線をロープウェイのあるパノラマ台まで一気に登ると矢雲神社下の展望台に出る。

ロープウェイ駅のあるパノラマ台は沢山の観光客が溢れておりまわりの景色は観光地に一変する。

弥三郎岳に登るため、東に向かって白い花崗岩砂に松の緑が映える道を進むと険しい岩道に変わる。



道には梯子、ロープ、鎖などがつけられている他、岩にはステップが刻まれているためそれほど危険ではないが、一般観光客に混じって一緒に列を成して登らなければならない

ため慎重に進む。

両側が切れ落ちた高度間のある狭い岩稜を渡って丸いドーム上の広い巨岩の上に立つと弥三郎岳の頂上となる。

展望は360度開けており、近くには太刀岡山・曲岳・黒富士、更に奥秩父の金峰山群、南アルプス山脈、遠くには富士山と見飽きることのない眺めが広がる。

奥の岩上には三等三角点があり、石柱

の周りには小銭のさい銭が沢山ばら撒かれている。最後に頂上の巨岩の上で集合写真を撮り、パノラマ台駅の戻り、昇仙峡探勝路を歩くべくロープウェイを利用して、昇仙峡滝上駅まで下山した。



昇仙峡滝上駅～昇仙峡探勝路～天神の森駐車場



昇仙峡探勝路は駅から数分歩いて荒川の豊富な水量を落す仙ヶ滝から始まる。

滝を望む岩壁の裾につけられた階段道を下りながら迫力のある滝の見学、溪谷の橋を渡り、石門の下をくぐり抜け、切り立った岩壁やそそり立つ岩峰、夕日に映える溪谷の紅葉の数々、溪谷の深い淵、巨岩の間を白く泡立つ水の豊かな流れなどを堪能して、タクシー（ロープウェイ駅で予約）の待つ天神の森駐車場に向かって帰路についた。



（記&写真・石原 勝正）

（写真提供・伊藤 久雄）

